

テラニシセスジゲンゴロウ コウチュウ目ゲンゴロウ科

Copelatus teranishii Kamiya

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

国内の分布は局所的、隔離的である。県内では、1箇所ではしか採集されていない。

形態

体長4.8~5.5mm、体型は逆長卵形で扁平。背面は暗褐色~黒褐色で、後頭、前胸背両側、上翅の基部横帯および両側、口枝、肢は黄褐色。上翅には6条の縦溝、1条の亜縁溝があり、間室は細かい点刻を装い光沢がある。体下面は黄褐色~赤褐色で後基節はやや暗色。

国内分布

秋田県、山形県、福島県、石川県、福井県、愛知県、岐阜県、三重県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、大分県、対馬。

県内分布

加賀市海岸付近で2006年8月にライトトラップによって3個体が採集されたのみである。発生場所は特定されていない。

生態

灯火に飛来すること以外は不明である。

生息地の条件

疎林に囲まれている日陰の小さな、水深の浅い水たまりや、水底に落葉が堆積している一時的な水たまり、河川敷の小溝などに生息するといわれている。秋田では、沼のヨシの腐植物の周辺で確認されている。

生存の危機

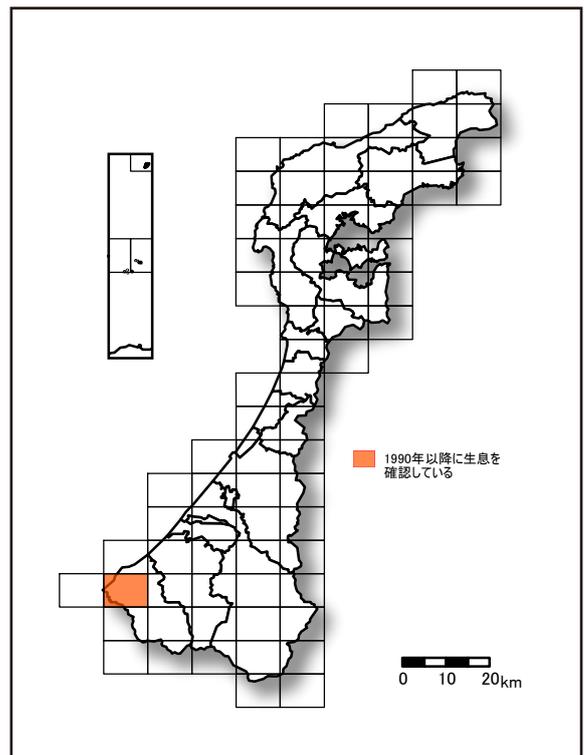
現在の生息地が局限されていること、発見地周辺の止水域は限られていることから、生息場所を明らかにすることが第一である。(A, B)

参考文献

大桃定洋 1989. テラニシセスジゲンゴロウを福島県で採集. 月刊むし, (226) : 5.
櫻井俊一 1992. 鳥海山麓のセスジゲンゴロウ3種の記録. 月刊むし, (262) : 20-21.
秋山美文・坂本 充 2000. 広島県の水生食肉甲虫類(コウチュウ目, オサムシ上科). 比和科学博物館研究報告, 39 (別冊) : 5-33.



標本提供者: 富沢章



県内の分布